

- デジタル技術の進展により急速に高度化した情報通信ネットワーク「デジタルネットワーク」は、私たちに多様な選択と自由に参加できる機会を提供しています。
- 近年、デジタルを駆使した新たなサービスが続々と登場し、同時に聞きなれない用語も増えてきましたので、最近よく聞く用語をまとめてみました。

とーくん【トークン (token)】

もともとは「しるし、証拠、引換券」のことで、近年、さまざまな意味で使われています。例えば、インターネット上で銀行振込する際、認証で一度だけ使える“ワンタイムパスワード”を生成する機器などがトークンと呼ばれています。

あんごうしさん【暗号資産 (Fungible Token)】

資産個別の識別情報を無視して「〇円分の資産価値を持ったデジタルデータ」として扱われる代替性トークンのことで、仮想通貨と言われることもあります。他の暗号資産や現金と交換ができます。

えぬえふてぃー【NFT (Non-Fungible Token)】

資産個別の識別情報を踏まえて資産価値を付与し、他の同等資産と交換ができない唯一無二の存在として扱われる非代替性トークンのことです。資産価値は相対取引で決まるため、デジタル世界の芸術品や空間(≒現実世界の土地)などの売買で利用されます。

うえぶ 1.0 / 2.0 / 3.0【Web 1.0 / 2.0 / 3.0】

インターネットの商用利用が開始された90年代が、テキスト情報主体のWeb1.0、通信速度の高速化でSNSなどが普及し、相互にコミュニケーションが取れるようになったWeb2.0、そして現在、セキュリティ向上などが期待されるWeb3.0の時代に入ったとされています。

	Web 1.0	Web 2.0	Web 3.0
特徴	一方向・一方通行型 (読み取り)	双方向・参加型 (読み取り+書き込み)	自律・分散型 (読み取り+書き込み+所有と参加)
管理者	特定の個人/企業	プラットフォーム(企業)	参加する個人/企業が相互監視
イメージ	誰でもHP作成	SNSなどの配信サービス	自律的に事業展開
時期	1990年頃～	2004年頃～	2021年頃～

ばろっくちえーん【ブロックチェーン (Blockchain)】

分散型台帳。情報を記録するデータベース技術で、データをブロックと呼ぶ単位で管理し、これをチェーン(鎖)のように連結してデータ管理することです。同じデータを複数ブロックで管理するため、改ざんが難しいとされています。

だお【DAO (Decentralized Autonomous Organization)】

分散型自立組織。ブロックチェーン上に同じ目的や能力を持った人が参加する組織のことです。参加者の投票で意思決定され、決定事項は自動的に実行されます。

でいふあい【DeFi (Decentralized Finance)】

分散型金融。既存の金融機関の中央集権的な管理システムを介さず、ブロックチェーン技術を使って取引する金融のしくみのことです。

えっくすあーる【XR (X Reality / Extended Reality)】

現実と仮想の世界を融合して生み出される映像技術の総称で、エンターテインメントや医療、製造業界などで活用・普及が進んでいます。以下に、代表的な技術を記します。

▲ えーあーる【AR (Augmented Reality)】

拡張現実。現実世界にデジタルコンテンツを重ねて映し出す技術です。

▲ ぶいあーる【VR (Virtual Reality)】

仮想現実。専用デバイス(ヘッドマウントディスプレイ)を利用して、仮想世界がその場に存在するかのように見せる技術です。

▲ えむあーる【MR (Mixed Reality)】

複合現実。VRとARを組み合わせて、デジタルコンテンツがその場に存在するような動きを実現させる技術です。

▲ えすあーる【SR (Substitutional Reality)】

代替現実。現在見えている映像と過去の映像を重ねて、過去に起きたことがいま起きているかのように見せる技術です。